

アザレアンさなだ

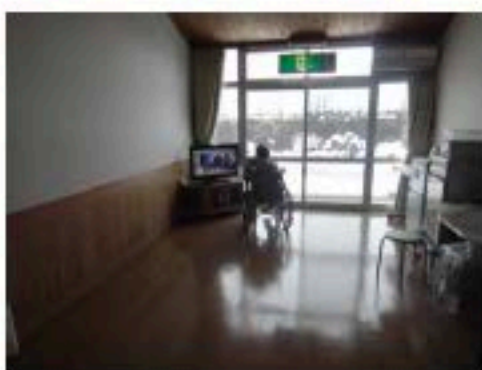
上田市に16の事業所があり、様々なサービスで高齢者の地域継続居住をサポートしている。地域包括ケアの先進事例として記事などで紹介されている。当初からの理念が、「何があれば地域に住めるか」で、システムの枠ではなく、理想と希望を前提として、やり方を考えてきた。

・ご案内して頂いた場所

- ①特養 アザレアンさなだ 横尾サテライト
- ②大畑の家（小規模多機能）大畑サテライト
- ③下原グループホーム
- ④新田の家（小規模多機能）

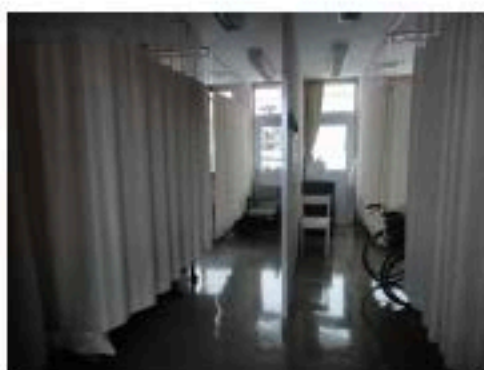


・特養 アザレアンさなだ



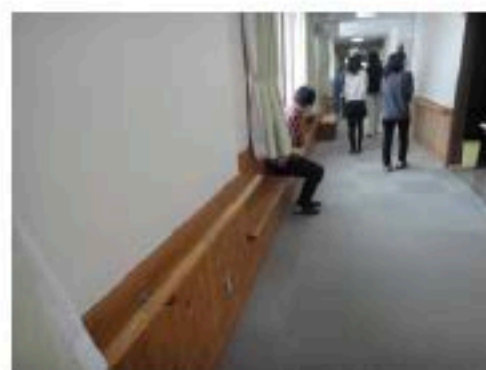
↑居室の間

廊下を移動していると、テレビが置いてあるちょっとした休憩ができるようなスペースを見つけられる。広さもあり、利用者同士の交流もできる。



↑多床室

平成5年4月開設で、居室は多床室となっている。4人部屋だが、室の真ん中に間仕切りを設けることで、真ん中に家具を置くスペースをつくっている。



↑廊下

採光がとれている明るい廊下になっている。歩いていて疲れたときに座れるようなベンチが設置してある。

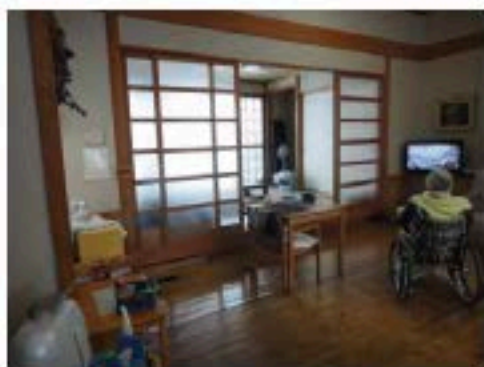
・横尾サテライト

アザレアンさなだの新館10床がサテライトとして独立



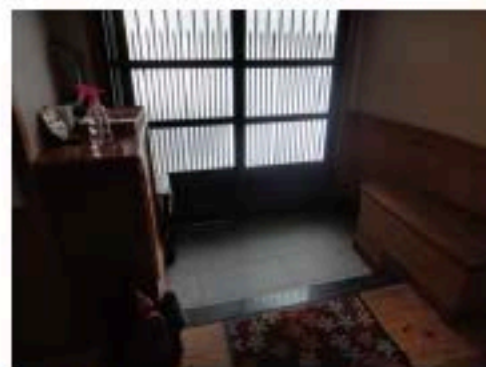
↑待合室のような場所

ソファやテレビ台などの家具がアザレアンさなだからの入口近くに置かれている。入居者の家族などの訪問者が使えるような場所になっている。天井の梁によって留まる場所と通る場所の意識を分けている。



↑ダイニング

ダイニングの空間と和室の空間に段差を設けており、扉が開いても場所が分けられている。扉のない開放的な畳コーナーと違い、和室単体としても使用できる。



↑玄関

施設っぽさのない一般住宅のような玄関であるため、利用者を閉じ込めるような雰囲気がない。また、馴染みやすく、お客さんを招き入れやすい玄関である。

・大畑の家 大畑サテライト



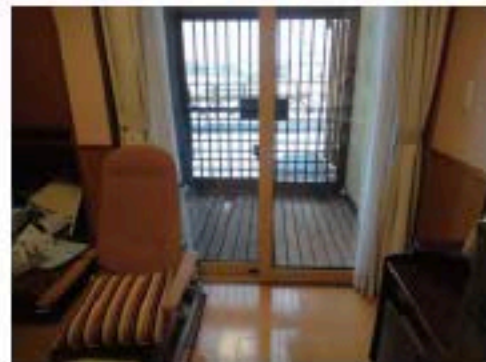
↑大畑の家

元々は宅幼老所だが、H19に小規模多機能に変更された。家のような外観である。



↑大畑サテライト

12人のためのサテライト。全室個室で、すべての個室に玄関がついている。



↑大畑サテライト玄関

お客さんを招き入れるための玄関であり、家族と一緒に過ごすために部屋の広さをとっている。

・下原グループホーム

定員が6人のグループホーム。グループホームは特別養護老人ホームへの通過施設になりがちだが、ここではそのような例はあまりない。



↑外観

平屋で、窓からは縁側が見られる。



↑土間

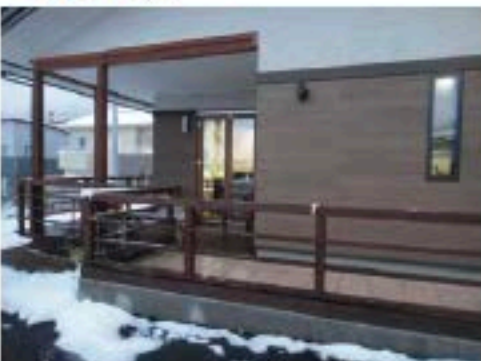
ユニットをつなぐ空間になっている。地域の人からの贈り物などがおいてあった。



↑リビングから土間が見える

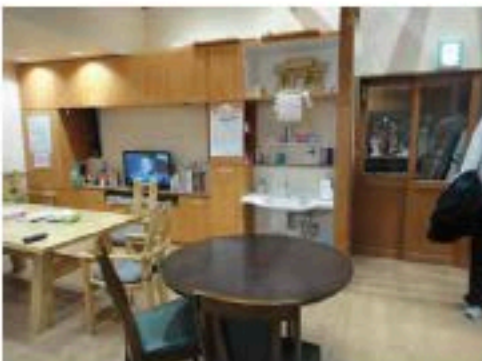
リビングから土間が見えるので、来客が来た時の変化などがわかる。

・新田の家



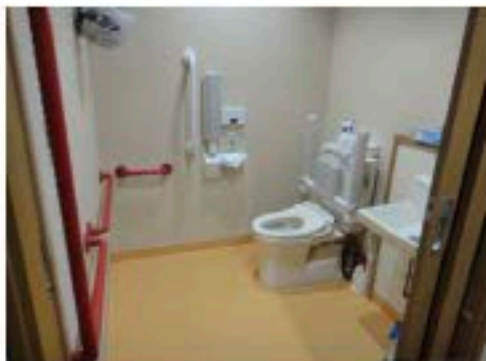
↑テラス

テーブル、いすが置かれており、天気よければ外で過ごすことができる。



↑LDK

玄関からの動線にあるため、利用者間の交流が生まれやすい。



↑トイレ

広々としており、車いすでも入りやすい。赤い手すりによって明るい雰囲気になっている。

・まとめ

「地域で粘る」ことを目的として在宅のサービスも充実しており、ショートステイの定員が多いことが自宅での継続居住のポイントになっている。ショートステイには越冬隊もいる。

職員の離職率は高くないが、高齢化しているため人手は不足していると感じる。ユニット間で職員が移動することによって全員を全員で見る意識を持つことで、あるユニットで職員がいないときでもカバーできるようにしている。

全体像は「上田市全体の大きな拠点」と「それぞれの地域での小さな拠点」としてつくられており、各地域で利用者以外の人も施設になじんでいるという印象を受けた。